

放送番組センターレポート

BROADCAST PROGRAMMING CENTER OF JAPAN Report

公益財団法人 放送番組センター

〒231-0021 横浜市中区日本大通 11 横浜情報文化センター
TEL.045-222-2881 FAX.045-641-2110 <https://www.bpcj.or.jp/>

■企画展「報道ステーション 伝えるチカラ」

2月25日～4月10日、企画展「『報道ステーション 伝えるチカラ』 震災から11年～現代を映す美術的アプローチ」（テレビ朝日共催）を開催。『報道ステーション』が、事実を分かりやすく伝えるために、美術やCGチームと共に行ってきた様々な工夫や大胆な取り組みを紹介した。

■震災の伝え方

『報道ステーション』では、東日本大震災から10年目の昨年、3月12日の放送で、番組と美術・CGチームが創意・工夫を重ねて原発内部の大型模型を制作し、そのスケール感や災害の重大さを伝えた。（写真▼スタジオに建てられた巨大な原子炉模型セット）



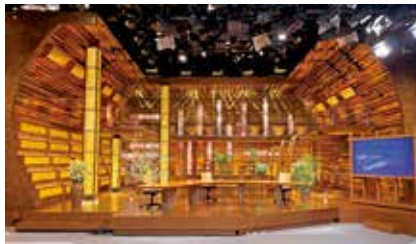
会場では、パネルと映像でセットの制作過程や原発事故CGのメイキング映像を紹介。さらに、原子炉内部の空間を来場者がタブレットで体感できるよう、AR（拡張現実）で再現した。

また、100箇所以上の「定点撮影」による被災地の11年間の変化をまとめたウェブサイト「●REC from 311～復興の現在地」を映像とパネルで紹介。映像に見入る来場者も多く「日頃、忘れがちな震災について再考するきっかけになった」という感想も聞かれた。

■伝える場所～スタジオセット

「伝える空間」にこだわりをもつ『報道ステーション』の4代目（現）スタジオセット（写真▼）は、木と和紙を用い、温かみと安心感を与えている。

会場では、セットの一部を実物大写真パネルや柱の実物モデルで再現した。



■OPCG、歴代グラフィック

リソグラフを用いて制作した現在放送中のオープニング（OP）と番組らしさを追求した画面デザインを、映像やパネルで解説。歴代ポスターやスタジオセットも展示し、その変遷を伝えた。



■選挙、スポーツ

選挙速報で注目を集めた、政治家の3DCGキャラを使った出口予想の映像、また大谷翔平選手の活躍を伝えるために制作したMLB選手の人形模型や、ホームラン王争いを分かりやすく伝えた山のオブジェを展示した。



■デザイナーによるセット解説ツアー

3月12日、セット解説ツアーを開催（1日3回）。テレビ朝日の美術デザイナーがセットやCGの工夫、震災報道への向き合いなどを詳しく解説した。参加者からは「番組のセットはどのようなタイミングで変えるのか」「セットの制作にはどのくらいの時間がかかるのか」といった熱心な質問が続き、終了後も「テレビ美術に対する理解や番組への関心がより深まった」など、多数の感想が寄せられた。



■番組を視聴する会第15回 震災特集



3月1日～27日、「震災を伝える・記録する・考える～『誰一人、取り残さない』ためにできること～」と題し、番組を視聴する会を開催した。

今回のテーマは「取り残さない被災者支援」。災害時、特に日頃から援助を必要とする高齢者や外国人、障害者、子どもたち、また在宅被災者など、さまざまな立場の人々が直面している状況と、一人でも多くの被災者を救おうと力を尽くす人たちについて取材・構成した、東日本大震災に関するテレビ・ラジオ番組7本を取り上げた。

これまでに開催してきた「番組を視

聴する会」で、東日本大震災関連の番組を取り上げるのは4回目。来場者からは、「震災発生から11年がたち、人々の記憶も薄れてきただけに、このような特集は意義深い」などの感想が寄せられた。来場者はのべ320人。

紹介した番組は次のとおり。

特集ドラマ「生きたい たすけたい」(2014/NHK)、「RAB 耳の新聞」(2011/青森放送)、「テレメンタリー 2018 置き去りにされた在宅被災者 見えぬ生活再建」(2018/東日本放送)、「テレメンタリー 2013 心の隙間を埋めて 南相馬の学習塾から」(2013/福島放送)、「NNN ドキュメント'11 家族を守れ “神様のバス”」(2011/日本テレビ)、「SBC スペシャル 復興の片隅で 石巻・仮設診療所からの問い」(2013/信越放送)、「NNN ドキュメント'12 生かされた命 阪神・淡路から東日本へ」(2012/読売テレビ)。

■来館者200万人を達成



放送ライブラリーの来館者数が、200万人に達した。2000年10月に横浜市中区の横浜情報文化センター内に本格施設を開設して以来、20年と3カ月で来館者総数200万人を達成し、2022年1月12日の午後に来館した横浜市内在住の山本さんご夫妻に、花束と記念品が贈呈された。

山本さんご夫妻は、これまでにも企画展や公開セミナーのため、何度も訪れたことがあるという。この日は、写真展「岩合光昭の世界ネコ歩き2」のために来館していた。

■写真展「岩合光昭の世界ネコ歩き2」

12月10日～2月13日、NHK BSプレミアムで好評放送中の番組「岩合光昭の世界ネコ歩き」の、第2弾写真展を開催した。第1弾は2016年12月～2017年2月に開催し、その後も再度の開催を待ち望む声が多数聞かれたことから、今回の開催につながった。



会場では、番組で紹介されたニューヨークやプリンスエドワード島、チリやペルーなど、16地域の個性溢れるネコたちの作品を約130点展示。地域ごとに微妙に異なるネコたちの表情に見入る来場者の姿が見られた。また、

ポスターやチラシなどの広報物や入口看板のメインビジュアルとして使用された、ブラジル・リオデジャネイロのコパカバーナビーチの人気ネコ「シキンニョ」のユニークな写真は、多くの来場者の目を引き、記念撮影を楽しむ姿が見られた。

会期中より、神奈川県で「まん延防止等重点措置」が適用されたが、番組ファンを始めとする世代を超えた来場者が多く訪れた。来場者からは、「コロナ禍で制限の多い毎日だが、岩合氏のネコの写真を鑑賞することで癒された」といった声が多数寄せられた。



■「岩合光昭の世界ネコ歩き」上映会

NHKの協力により、今年放送10周年を迎える「岩合光昭の世界ネコ歩き」の上映会を同時開催した。この番組は、岩合氏が映す愛らしいネコの表情を満喫できる番組として、多くのファンに愛されている。今回は日替わりで8作品を上映した。写真展示した16地域の中から、ニューヨーク、リオデジャネイロ、イングランド、モルドバ、アラブ首長国連邦、スリランカ、オーストラリア・ケアンズ、バリ島の8地域を上映作品として選出。写真展の内容と連動しており、写真と映像両面からネコたちの表情を堪能できたと大変好評だった。また、全番組を鑑賞しようと、何度も足を運ぶ来場者もあった。



■研究者インタビュー

放送ライブラリーでは、番組制作者や教育・学術研究者向けに、専用の研究者ブースを設けている。2011年から研究者ブースを利用されている、ノートルダム清心女子大学文学部（岡山県）の尾崎喜光教授に、番組の研究利用についてお話を伺った。

尾崎先生の専門は「現代日本語の話し言葉の変化」で、主に方言や言葉の男女差について研究を行っている。放送ライブラリーでは、『街頭録音』（1947/NHK、以下放送ライブラリー公開番組の放送年）で「～わよ」「～かしら」等の女性的語尾や、『くろーず UP せとうち』（1985～86/テレビせとうち）で岡山弁の使用について調査してきた。特に古い音声は、ナレーション等での共通語の記録はあっても、人々の日常の発話は番組内のインタビューくらいでしか聞くことができないという。

調査では、音声を一語一語聞きながら、対象となる単語や表現を逐一記録していく。チェック項目は、話者の年齢や性別、職業、アクセントの位置や直

前の音にまで及ぶ。「制作者は、まさかこんなふうに番組が見られるとは思わなかったでしょうね」と笑うが、番組が期せずして言葉の貴重なサンプル集になっていたという証でもある。

近年関心を寄せているのが「言う」の発音。辞書的には「いう」だが、口語では「ゆう」と発音されることが多い。先生は、登場人物や台詞数の多い『渡る世間は鬼ばかり』（1990-2009/TBS）に着目し、台詞に含まれる「言う（言わない、言った等の活用形を含む）」をすべて聞き取り、その発音が「い」か「ゆ」かを調べた。その結果、「言い」など語幹「言（い）」の次が「い」の時は「いい」だが、「言う」はほぼ「ゆう」と発音されていることが判明した。

また、「コマ回し」は「まわし」ではなく「まあし」と発音される現象についても、『3年B組金八先生』（1979-2001/TBS）で同様の聞き取りを行っている。「右手に『言う』の綱、左手に『わ』の発音」の綱を持ちながら、流れてくる言葉に耳を傾けている」とのことで、他にも「先生」→「せんせい」、「生命」→「せい

めー」等、「えい」の発音が「えー」と長音化するか否かについても、CMも含めて調査したいと意欲を語る。

「学生の気の置けない会話や無意識に使われる方言への好奇心が、研究のきっかけになる」と尾崎先生。くだけた言葉遣いは、ともすれば「言葉の乱れ」と受け止められがちだが、先生はあくまで「言葉の変化」と捉える。「『まわる』が『まある』になるのは、その方が発音が楽だから。我々は今、長い日本語の歴史の最終段階に立ち会っている」と分析する。『くろーず UP せとうち』では、今はもう聞くことのなくなった古い岡山弁の発音を耳にすることもあり、番組は「言葉の変化を探るための宝の山」であるとも感じている。

放送番組は、内容は勿論、その映像や音声すべてが貴重な時代の証言者となりうる。特に、改まって記録されることの少ない日常生活に関わる事象は、オンエア当時のみならず、時を経たからこそその新たな価値が現れる。番組アーカイブのより幅広い学術的な利用とその可能性が、今後も期待される。

■令和3（2021）年度第2回理事会

3月15日に開催した第2回理事会で、2022年度事業計画・収支予算を承認した。概要は以下の通り。

◇「公開番組の一層の増加」「事業の全国展開」「放送事業者の理解・協力の推進」を重点項目として、事業に着実に取り組んでいく。

◇「事業の在り方に関する検討WG」で議論した事業改革案を基盤に、次期事業方針を策定するとともに、改革案に掲げた業務に着手していく。

◇事業の公共性に対する放送事業者の理解促進に努め、番組の収集・保存・公開業務を一層推進する。

◇サテライト・ライブラリーは地域の放送事業者の理解と協力を得ながら拡充、利用促進に努める。

◇大学等教育機関における公開番組の利活用は、柔軟な視聴方法の実現により利用校増加に努め、中学・高校等での

本格運用に向けた業務を推進する。

◇展示会や公開セミナー、番組上映会は、コロナ禍の状況を見極めながら年間を通じて開催し、放送文化に対する理解を促進し施設の認知度を高める。

◇展示や催事を通じ、若い世代を中心に放送への関心を高めるほか、オンラインを活用した展開を推進する。

◇収支予算は経常収益3億6,666万円、経常費用3億9,897万円を計上する。

■放送番組収集諮問委員会

3月17日、第30回（2021年度）放送番組収集諮問委員会を開催した。議題は以下の報告事項5項目。

1. 「放送番組収集基準」の適用状況
2. 番組の収集、保存、公開状況
3. サテライト・ライブラリーおよび大学等教育機関での利用状況
4. 次期事業方針に向けた取り組み
5. 2022年度事業計画、収支予算

委員からは、昨年度の委員会での提言（ニュース番組の保存・公開）を受けて番組保存委員に実施したアンケート結果について、「権利問題など難しい部分はあると思うが、ニュースの保存は歴史の記録として極めて重要である。前向きに保存活用の方向を探っていってほしい」との意見があった。また、昨年度から試験運用を開始した中学・高校での番組利活用状況の報告について、「今、若者の放送離れ、関心の低下は危機的レベルである。その中で、中学や高校での教育利用が広がっているのは好ましい。特に、現代国語や美術の授業で活用されたのは興味深く、新しい可能性を感じる。更に広がってほしい」「大学での利活用も、メディア学科以外、例えば都市デザインや社会学部、観光学部等、諸分野に拡げられる可能性を秘めている。これら教育現場での活用に、積極的に取り組んでほしい」などの意見があった。

■教育機関等での番組利活用

【日本大学】

2021年度後期、法学部新聞学科「調査ジャーナリズム(音声メディア論)」(石井育子非常勤講師)の授業で、『街頭録音 日米行政協定をめぐる丸ビル正面』(1952/NHK)、『マイクの広場ある搜索願い 出稼ぎ失踪者を追って』(1965/文化放送)、『ラジオモニタージュはばたきたい』(1963/CBC ラジオ)、『ジェットストリーム』(1973/エフエム東京)、『TBC ラジオドラマスペシャル「プラットホーム」』(2007/東北放送)などの7本が利用された。

【横浜隼人高等学校】

2021年度、2年生「現代文」の授業で、『日本名作ドラマ ころも』(1994/テレビ東京、カズモ)が利用された。

【女子美術大学付属中学校】

2021年度、2年生「修学旅行事前学習」の授業で、『SBCスペシャル 無言館 レクイエムから明日へ』(2006/信越放送)が利用された。

■公共施設での番組利活用

【国立国際美術館(大阪)】

3月12日、「第22回 中之島映像劇場『映像のアルチザン—松川八洲雄の仕事—』」が開催され、『日本紹介特別制作番組 JAPAN』(1974/放送番組センター)が上映された。

【沖縄県立図書館】

3月23日より、同館内のAVコーナーで、沖縄の民放局やNHKが制作した、沖縄戦を中心とした沖縄県に関するテレビ・ラジオ番組24本の視聴が開始された。今後も関連番組を追加する予定である。

【番組上映会とセミナーでの利活用】

3月26日、市川森一脚本賞財団主催、放送番組センター共催の「テレビドラマの巨人たち～人間を描き続けた脚本家～第5回『岩間芳樹 ひと、歴史 その一瞬に生きる』」が千代田放送会館で開催され、岩間芳樹脚本『ドラマスペシャル ビゴーを知っていますか?』(1982/NHK)をストーリーミン

グ送信して上映したほか、全3作品が上映された。上映後には、出演者や制作者によるシンポジウムと、市川森一脚本賞贈賞式が行われた。

■東日本大震災関連番組のNHK・民放合同上映会を仙台で開催

仙台のNHK、民放テレビ局4局と放送番組センターが連携し、3月19～21日にNHK仙台放送局内の公開スペース・4K8K定禅寺シアターで、「NHK・民放合同番組上映会2022『3.11 伝え続ける～未来のために～』」を開催した。この上映会は2018年度より開催しており、今回で3回目となる。上映した番組は、在仙の各局が制作したドキュメンタリーやドラマ8本で、一部を除き、放送ライブラリーの公開番組の中から各社の番組をピックアップしたものである。上映に際しては、各番組の権利者から著作権等の許諾を得て、横浜の放送ライブラリーからストーリーミング送信を行った。

■2021.12～2022.2の公開番組

【テレビ番組】

『日本のチカラ』

君と、君の椅子の12年。』

2017.11.05/北海道放送

『TBC テレビ60周年記念ドラマ』

小さな神たちの祭り』

2019.11.20/東北放送

『世界初公開 封印された魔境セピック～』

原始の儀式に命をかける～』

2010.03.27/BS テレビ東京

『ザ・ドキュメント“異才”たちの凸凹道』

不登校17歳 東大へ行く』

2020.03.30/関西テレビ放送

【ラジオ番組】

『中村哲追悼番組 ～HELPING HAND～ 真の国際貢献とは』

2019.12.30/ラベエフエム国際放送

『大田黒浩一 朝ワイドでしゃべって40年!』

元気でよかば～い!』

2021.03.14/熊本放送

など、テレビ154本、ラジオ36本。

■新公開番組 PICKUP!

NNNドキュメント'18 犬の骨の花

2018.07.09 /青森放送

プロデューサー・ディレクター：小山田文泰

失われた動物の命を、小さな花に託す高校生を追ったドキュメンタリー。

舞台は青森県立三本木農業高校。動物科学科の2年生は、毎年青森県動物愛護センターを訪れ、殺処分されたペットたちの骨を受け取る。6年前、骨が事業廃棄物として処分される現状を知った生徒たちが、骨を砕き、土に混ぜ、その土で花を育てる「命の花プロジェクト」を始めた。「動物たちを二回殺しているのではないかと思うこともあった」と涙ながらに語る生徒もいたが、活動は後輩に引継がれ、「殺処分の現状を訴えたい」と地元のイベントや介護施設での地道な

普及活動に奮闘し、「命の花」が無くなることを最終目標としている。

最初は慣れない様子でプロジェクトに参加していた生徒たちも、動物たちと学校生活を送る中で、後輩にアドバイスをするまでに成長する。「犬や猫たちの『もっと長く生きたかった』という思いを、花に命を与えることで遂げてほしい」という、農業高校生ならではの願い。動物を愛し、命を奪うこと、そして命を育むことを真剣に学び、悩みながらも前を向く姿に胸を打たれる。

コロナ禍でペットの飼育を検討する人が増えたというが、どんな動物にも命があり、飼えば家族の一員となる。多くの命が日々失われていく現在、人間だけでなく、動物の命の尊さについても今一度考えるきっかけとなる番組だ。

◆放送ライブラリー公開番組数

テレビ番組18,237本/ラジオ番組4,880本/テレビ・ラジオCM12,200本/劇場用ニュース映画2,683項目(2022.3.31現在)